

# たぐろ

TAKUSUI  
No. 783

1  
January.2022

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会まであと **10**ヶ月



「虹の仲間で森づくり」～神出神社周辺 (神戸市西区)～

## 特集 新たな水産資源管理について

### CONTENTS

- 2 新年のご挨拶
- 7 JF赤穂市 大河 優組合長ら「のじぎく賞」受賞
- 8 特集 新たな水産資源管理について
- 9 JF兵庫漁連 第46回通常総会 開催  
兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う  
兵庫県水産賞 受賞者決定



## 躍動する兵庫、

## コロナを乗り越え未来へ

兵庫県知事

# 齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。昨年も新型コロナウイルスが私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしましたが、県民・事業者・医療関係者の皆様のご協力により、第五波を乗り越えることができました。

しかし、感染再拡大のリスクは続きます。マスク着用、手洗い、「密」の回避など基本的な感染対策の徹底を引き続きお願いいたします。県としても、保健所や医療提供体制の強化、三回目のワクチン接種の推進など、対策に万全を期します。同時に、「ワクチン・検査パッケージ」等も活用しながら、飲食、旅行、イベントなど、社会経済活動との両立も図っていきます。

さらに、今年はポストコロナ時代を見据えた取組を本格的に検討・推進する年とします。

その一つは、時代の潮流であるデジタル化やグリーン化の加速。デジタル技術を、働き方、教育、医療・介護、地場産業や農業など様々な分野で取り入れるとともに、再生可能エネルギーの導入拡大や水素の利活用などの地球温暖化対策に力を入れます。

また、少子高齢・人口減少社会への対

応や、頻発化・激甚化する自然災害への備え、交流と日常生活を支える道路ネットワークワークの整備など、すべての県民の皆様が安心して、育ち、働き、暮らし続けられる、だれも取り残さない兵庫づくりを進めます。

大きなポテンシャルを持つベイエリアの活性化にも本腰を入れます。二〇三五年大阪・関西万博は、兵庫に人・モノ・投資を呼び込む大きなチャンスです。更なる発展の起爆剤とすべく、ベイエリアプロジェクトの起動、万博の来場者を県内各地へ誘うフィールドパビリオンの具体化など、新たなチャレンジをしていきます。

もとより、こうした取組は行政だけでできるものではありません。民間との連携をこれまで以上に広げていきます。また、私自身が県内各地で地域の皆様と対話を重ね、地域の課題やニーズを新たな施策に繋げていく県民ボトムアップ型県政を推進します。

「躍動する兵庫」の実現に向け、飛躍の一年としていく決意です。

皆さんのご理解、ご支援をお願いします。

### 表紙の言葉

#### 「虹の仲間で森づくり」～神出神社周辺(神戸市西区)～

漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育てていくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間で森づくり」が12月4日(土)、神戸市西区にある雌岡山(神出神社周辺)で開催されました。今年で15回目の開催となり、約80名が集まりました。

写真は「虹の仲間で森づくり」に参加したJFグループ関係者、コープこうべの会員や行政関係者です。



## 《今月の海上安全標語》 ～ 明けましておめでとうございます ～

新しい年の始まりに、一年を安全に過ごす誓いを立てましょう。今年こそ海難事故ゼロを目指しましょう。

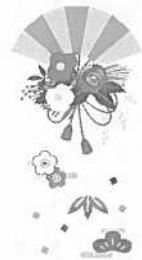
# 誓います 今年も一年 安全操業

では、今年も安全操業で!

# 新年のご挨拶



## 年頭のご挨拶



兵庫県漁業協同組合連合会  
代表理事会長

田沼 政男

新年明けましておめでとございます。  
年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

今年第1回目の海苔共販は、昨年12月10日に予定しておりましたが栄養塩不足等の影響で出品が少なく中止となりました。また海洋環境の影響を大きく受けるとされているイカナゴは5年にわたって不漁が続いております。海水温上昇、海流変化や貧栄養、藻場・魚礁の激減など海洋環境に起因するとみられる水産資源の減少は、「豊かな海の再生」が待ったなしの状況であることを示しています。

このような中、昨年6月に瀬戸内海環境保全特別措置法が再度改正され、「栄養塩類管理制度」が創設されるなど、豊かな海の再生に向けようやく法

律が我々漁業者の求めてきた形に近づいてきました。ここからが正念場です。

これまで海底耕耘、森づくり、かいほり、施肥等、各地域で様々な取り組みをしていただいておりますが、瀬戸内海は複雑な地形で湾・灘ごと、更にはその中の特定の海域によっても抱える課題が違います。これまで以上に地域が主体となって地元のあるべき姿を思い描き、国や県、関係団体と連携してあらゆる世代を巻き込んだ大きな動きにしていかなばなりません。難しい課題ですが、協同組合の理念である「協同と相互扶助」の精神をもって一致団結して取り組み、豊かで美しい海の実現に向け、さらに取り組みを進めていきたいと思っております。

1年延期になった「全国豊かな海づくり大会兵庫大会」は、いよいよ今年11月13日に明石市で開催されます。会

員各位のご協力により、ブレイベント、各地でのリレー放流、出前おさかな講習会、漁業体験などを通じて機運も高まってきました。豊かな海づくりに向けた兵庫の取り組みを広く県民・国民に発信し、海の恵みを将来に渡り供給できる社会の実現を目指して取り組んで参りますので、県当局はじめ関係諸団体におかれましては、引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、寅年は「芽吹いたものが成長する」縁起の良い年と言われております。本県漁業が活気にあふれる1年となりますよう、皆様の繁栄とご健勝を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。





## 年頭のご挨拶

なぎさ信用漁業協同組合連合会  
経営管理委員会 会長

### 中川 照央

新年あけましておめでとうございませす。年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年、日本経済を顧みますと、前半に猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大も落ち着きを見せており、企業業績は製造業を中心に持ち直しの動きが見られ、日経平均株価も一時は3万円台を付けるなど、比較的堅調に推移しております。

感染力の強い変異株拡大の報道もあり、東観視できないものの、徐々に平穏な日常を取り戻していくことを信じてやみません。さて昨年は、6月の通常総会において定めた事業計画に基づき、「中長期ビジョンの策定（目指すべき将来あるべき姿）」を重点目標に掲げ、本会経営管理委員、会員並びに関係団体のメンバーからなる委員会を設置し、検討を重ねております。マイナス金利の長期化による厳しい経営環境下にあつて、利用者の皆様のニーズに添えるため、安定経営を継続しうる体制構築が急務となつて踏まえて、収益力強化とローコスト運営に係る具体的取組事項を明確化し、不断の自己改革をさらに推し進める必要があるとの認識を深めていく所です。

同時に、組織体制のスリム化と迅速な経営判断を行うことを目的に、現行の役員体制の見直しについても委員会を設置し、検討の結果、経営管理委員会定数の減員を実施することとし、年度内での総会決議を経て組織決定する運びとしております。また、水協法の改正により、新たな課題として、令和5年度から会計監査人監査制度の導入が義務付けられたことから、本年度中に業務プロセスに潜在する課題を解消したうえで、来年度には会計処理や内部統制（企業が適切に経営や事業を進めていくためのルールや仕組み）の検証に係る予備調

査を受検することになっております。独立した第三者である監査法人から、適正に財務情報が開示されていることの保証を得て、金融機関としての信頼性を確保するため、監督官庁である金融庁の監査目線にも耐えうる会計基準の厳格適用と事務の堅確性向上に努めてまいります。

一方、漁家経営支援の取り組みとして、コロナ禍で疲弊した漁業や水産加工業の支援と活性化を目的に、昨年10月22日に香美町と本会を含む漁業関連5団体との間で、包括連携協定を締結しました。



兵庫県漁業共済組合  
組合長理事

## 新年のごあいさつ

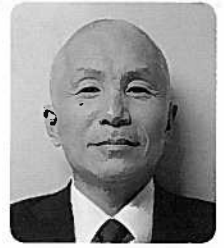
### 川越 一男

謹んで新年のご挨拶を申しあげます。新春にあたり、皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申しあげます。昨年を振り返りますと、一昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうなか、東京オリンピック・パラリンピックが無観客で開催されるなど、慌ただしく過ぎていった一年となりました。コロナ禍による水産物需要の減少や魚価の低迷は、今日もなお水産業界に多大な影響を及ぼしています。また、コロナ禍に追い打ちをかけるように昨年も自然災害が多発し、集中豪雨や台風被害のほか、北海道沿岸の赤潮被害、小笠原諸島の海底火山「福徳岡ノ場」の噴火に伴う大量の軽石漂流による漁業被害など、これまでに経験したことがないような漁業被害が起り、非常に厳しい漁業経営を強いられる一年となりました。このよ

うななか、令和3年度の「ぎよさい」と「積立ぶらす」の引受実績は、いずれも過去最高となった令和2年度をやや下がるペースで推移しました。一方、支払実績は、船曳・10t未満底曳、沿岸一本釣り等の不漁に加えて、近年は比較的安定した生産を続けていたノリ養殖業でも栄養塩低下に伴う不作に加えコロナ禍の影響も含め、安定していた単価も下降したため、過去最高の支払となりました。「ぎよさい」と「積立ぶらす」の補償によって不漁や自然災害、コロナ禍の厳しい漁業経営を支えることができたものの、漁業経営を取り巻く環境は厳しさを増してきており、漁業経営のセーフティネットとして「ぎよさい」と「積立ぶらす」が果たすべき役割が更に重要になってきています。

水産業の将来に向けた改革が進められていくなかで、「漁業収入安定対策の機能強化及び法制化」が引き続き水産庁で検討される予定です。漁業経営の安定は、水産改革の推進において不可欠であり、

た。これまでの金融サービスの枠に囚われない工夫を凝らし、「漁家経営相談室」が主体となつて、協同組合金融の強みと役割を發揮し、漁村地域の発展に貢献していく取り組みを継続してまいります。最後に、「愛される浜の金融機関」としてあり続けるために、本年も役員一丸となつて事業運営に取り組んでまいり所存ですので、倍旧のご指導とご鞭撻をお願いするとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局  
水産課長

### 中岸 明彦

一方で、今年は、国が進める水産制度の改革の下、初めて行われる漁業権の一斉切替えを来夏に控え、その準備を行う1年でもあります。新制度

では、県が免許に先立ち作成する漁場計画に対し、利害関係者の意見を求め、意見に対する検討の結果を公表する義務が設けられました。TAC対象魚種の拡大や漁獲情報の報告義務など新制度で設けられた他の項目と合せ、皆様に不都合を生じないようにしっかりと対応して参ります。

## 新年のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター  
水産技術センター所長

### 平石 靖人

す。これにつきましても、大会を含む様々な機会を通じ、「兵庫の海は、漁業者がしっかりと守り、育て、使っている。そこにはたくさんの関係者、県民の皆様の支え、応援がある。」という本県水産業の姿を十分に発信しなければならぬと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ダイによる食害の影響であることを明らかにし、食害被害の軽減を目指した研究を本格化させます。また、詳細な動物プランクトンを中心とした調査を実施し、適正な栄養塩環境を検証していきます。さらに、マガキの貝毒規制期間の見直し等に向けた研究を推進していきます。

日本海では、「但馬沖ホタルイカの漁場形成に係る研究」を推進するとともに、開発した「ベニズワイガニの高鮮度流通技術」の普及を進めます。また、水産加工分野では、「数理モデルを活用した水産加工品の品質管理技術の開発」に新たに取り組むこととしています。

実な実施」等の方向性が示されました。また瀬戸法改正に基づき、全国に先駆け「本県栄養塩管理計画」の策定に向けた議論がスタートするなど、

本年11月の「全国豊かな海づくり大会兵庫大会」の機運醸成に向けて、当センター啓発普及施設の活用、須磨水族園における「豊かな海特別企画展」等、情報発信にも努めますので、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

兵庫の海が豊かな恵みをもたらすとともに、皆さまにとって実り多い年となりますよう祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。今年、来る11月13日（日）明石市において、天皇皇后両陛下に行幸啓いただきます「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」が開催されます。大会の成功に向け、皆様と力を合わせ盛り上げて参りたいと考えておりますので、お力添えの程よろしくお願ひ申し上げます。

また、時機を合せ、栄養塩類等管理計画の公表も予定されています。昨年6月に改正された瀬戸内海環境保全特別措置法に基づくこの計画により、いよいよ待望の栄養塩類の積極的管理が本格的に始まります。世界初の画期的試みであり、法改正を成し遂げられた皆様のご尽力に心より敬意を表します。私どもといたしましても、皆様を取り組まれる豊かな海づくりへの支援を引き続き行いますとともに、大会を契機に、「豊かな海づくり」が漁業者の運動から県民の運動に大きく広がり飛躍できるよう努めて参ります。



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、気分新たに清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年、水産業界では、新漁業法に基づく新たな資源管理、MSYベースの各魚種資源評価の具体化が本格化し、国の次期水産基本計画の3本の柱「海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着

新たな時代に向けた変革が本格化し、不安を抱く漁業者の方も多々あります。研究機関として、今まで以上に国・関係府県と協議を密にし、漁業者の皆さまが納得できるように、この課題に取り組んでまいります。





## 年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局  
漁港課長

### 前川 広治

新年あけましておめでとうございませう。皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

近年、全国で自然災害が相次いでいます。昨年7月、8月の豪雨等により、各地に被害が起きました。幸い県下の漁港・海岸施設では大きな被害はありませんでしたが、改めて自然災害の危険性を痛感し、漁港・漁村の基盤整備の必要性を認識しました。

こうした中、兵庫県では、平成27年6月に策定した「津波防災インフラ整備計画」画」、平成31年3月に策定した「日本海津波防災インフラ整備計画」に沿って耐震・耐津波対策を、また令和2年6月に策定した「兵庫県高潮対策10箇年計画」に沿って、効果的、効率的な高潮対策を推進しています。

このほか、漁港施設について、漁業生産活動の効率化・省力化を図るための整備や機能を保全する老朽化対策、航路・泊地の維持対策等に計画的に取り組んでいます。

さらに、浜の活力再生プランに掲げる所得向上に向けた取組として、ノリ養殖業の収益性向上・競争力強化を図る施設の導入や鮮度保持施設等の共同利用施設の建設など、国の補助事業を最大限活用

し、支援に努めています。

昨年3月には、県の農林水産業・農山漁村に関する各種施策の基本となる「ひょうご農林水産ビジョン2030」を策定しました。また、国においては本年3月に新たな漁港漁場整備長期計画が策定される予定です。今後とも、このビジョン等に沿って、漁港施設の長寿命化の推進等による漁村の防災減



全国漁業協同組合連合会  
代表理事会長

## 新年のご挨拶

### 岸 宏

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年はJFグループの歴史の中でも極めて厳しい1年となりました。新型コロナウイルスの感染拡大、海洋環境の変化に伴う記録的不漁、漁業用燃油価格の高騰、北海道太平洋沿岸における赤潮被害や沖縄県・鹿児島県等沿岸における軽石漂着被害などを受けて、浜では産出額が落ち込み、生産の基盤となるJFの経営においても売上高、営業利益が減少し、影響等の長期化が懸念されております。

そのため、漁業者ならびにJFグループでは、新漁業法の下、新たな資源管理

災対策の推進はもとより、水産物の安定的かつ持続的な供給に寄与するよう、より一層安全で活力ある漁港・漁村づくりに取り組みでまいりますので、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年も安全な操業が続き、また、皆様方にとって実り多い年となりますよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

の推進をはじめ、自ら改革を実践し、成長産業化を成し遂げるために、諸対策の確立を関係要路に強く要請しました。その結果、要望事項を網羅するかと、4年連続で

3,000億円を超える予算を確保しました。ここに改めまして、会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

さて、本年は新たな水産基本計画の策定の年にあたります。我々漁業者は、改正漁業法に基づく新たな資源管理の推進等について、自らの課題として取り組んでいく必要があります。併せて、漁業の成長産業化と資源管理の2つを両立させ、近年顕著となっている海洋環境の変化を十分に踏まえた上で、新たな資源管理や栽培漁業を推進していくことが重要です。これらを踏まえ、我々は、浜の改革と資源管理の実践者である漁業者の理解と納得を得た上で進めていただくよ

う、国に対して求めていく所存です。

併せて、昨年度から取り組んでいるJFグループの運動方針に則り、新たな資源管理を前提とした世代交代の円滑化と低年齢層での自立が行われる循環型の生産構造を目指すほか、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革、浜プランの後押しなどに取り組み、浜の構造改革を実現して参ります。

今後も新型コロナウイルスとの戦いは続き、この脅威と向き合っていくには国によるコロナ対策・支援が不可欠です。JFグループでは、漁業全体が失った販売先・販売量・魚価を回復させるため、国が策定した対策を引き続き活用するとともに、プライドフィッシュプロジェクトや産直通販サイト「JFおさかなマルシェギョギョいち」などを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担って参ります。

また、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の問題については、本会の「漁業者・国民の理解を得られないALPS処理水の海洋放出には、JFグループとして断固反対」という立場に変わりはなく、引き続き国としての対応を強く求めて参ります。

会員をはじめ、関係者の皆様におかれましては、これまで以上に英知と総力を結集していただき、漁業の成長産業化に向けて、引き続きのご理解・ご協力を頂きたくお願い申し上げます。

最後になりますが、全国各地でご活躍の皆様のご安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



### 3か年計画最終年度に向けて

全国共済水産業協同組合連合会  
代表理事会長

## 福原 正純

つを両立させる水産改革を実施し、水産日本の復活に向けて大きく舵をきり、この実現に対しての取り組みを始めたところ  
です。

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、浜の皆様にご挨拶の機会を申し上げます。

平素よりJF共済に格別のご高配を賜わり、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、2020年より引き続き新型コロナウイルス感染症により様々な影響を受けました全国の漁業関係者ならびに地域住民の皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。また、地震や豪雨等の自然災害により未だ不自由な暮らしをされています方々へ、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響は、海外における感染の再拡大や国際的流通環境の悪化に加え、国内では長期化した緊急事態宣言等により、魚の販売数量の減少、鮮魚市などのイベントの中止など、漁業においても非常に厳しい状況が続き、水産物の需要や価格の回復に向けて先が見えていない状況が続いています。

また、不安定な国際情勢を背景とする世界的な原油価格の高騰に加え、少子高齢化に伴う漁業従事者の減少、気候変動・海洋環境の変化等による不漁は、漁業者やJFにとってますます厳しい環境となつています。

いっぽう、2020年12月に改正施行された漁業法において国は、「水産資源の適切な管理」と「水産業の成長産業化」の2

このような中、JF共

済は、2020年度を初年度としたJF共済3か年計画「浜の安心を未来へ」ひろげよう共済の輪」において、「JF組合員・世帯構成員および地域住民に対して、JF共済を広く浸透させ、JF共済の輪の拡大を図るとともに、JF・JF共水連が一体となった共済推進体制の整備、JF共済事業をささえるJF役員・JF共水連職員・JF共水連の組合員・世帯構成員・地域住民の保障ニーズに応じた共済制度の開発、JF支援態勢の強化およびJF共済の健全性・信頼性の強化」などの主要施策を展開しております。

2022年度は3か年計画の総仕上げの最終年度であります。昨年10月に新しく開発された介護共済を全戸訪問活動の機会を通じて全組合員への案内を行うとともに、保障点検活動と生涯生活保障設計に結び付け、「浜のあんしんサポート運動」を積極的に展開してまいります。これにより各都道府県のJF共済推進本部およびJFと一体となり、共済事業量目標の達成に向けて、取り組んでまいります。

また、JF事務の軽減、共水連業務体制の集約による効率化を目的とする共済事務の改革「業務改革」と共水連の内部管理体制の強化など「組織管理改革」を推進してまいります。引き続き「指導・ご協力」を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

## JF赤穂市 大河 優組合長らが

### 「のじぎく賞」を受賞 サップフィッシングの遭難者救助に貢献

JF赤穂市の大河 優組合長、森口 和彦さん、大河 司さんがスタンドアップパドルボード（サップ）で釣りに出て転覆遭難した男性の救助に貢献し、11月22日に兵庫県の善行表彰「のじぎく賞」を受賞しました。

男性は11月10日に坂越湾から出航。相生湾口沖で釣りをして、波が高くなってきたので戻ろうとしたが高波で転覆。ライフジャケットを着ており、岩場まで泳いで上陸し携帯電話で救助を求めたそうです。

赤穂署から要請を受けた大河組合長らは警察官や消防署員らを漁船に乗せて捜索に向かい、釜崎半島の岩場で手を振る男性を発見。波浪で船を接岸できず、現場で兵庫県消防防災ヘリコプターの到着を待ち救助を支援しました。

当日は遭難位置情報が錯綜し、荒天の現場海域で大型漁船に乗り換えを余儀なくされるなど、救助活動には危険



が伴いました。サップを用いて釣りをしているサップフィッシングで漁船に救助される事故は他県でも発生しています。愛好者には技術や海の天候の知識をしっかりと身に付けて欲しいものです。

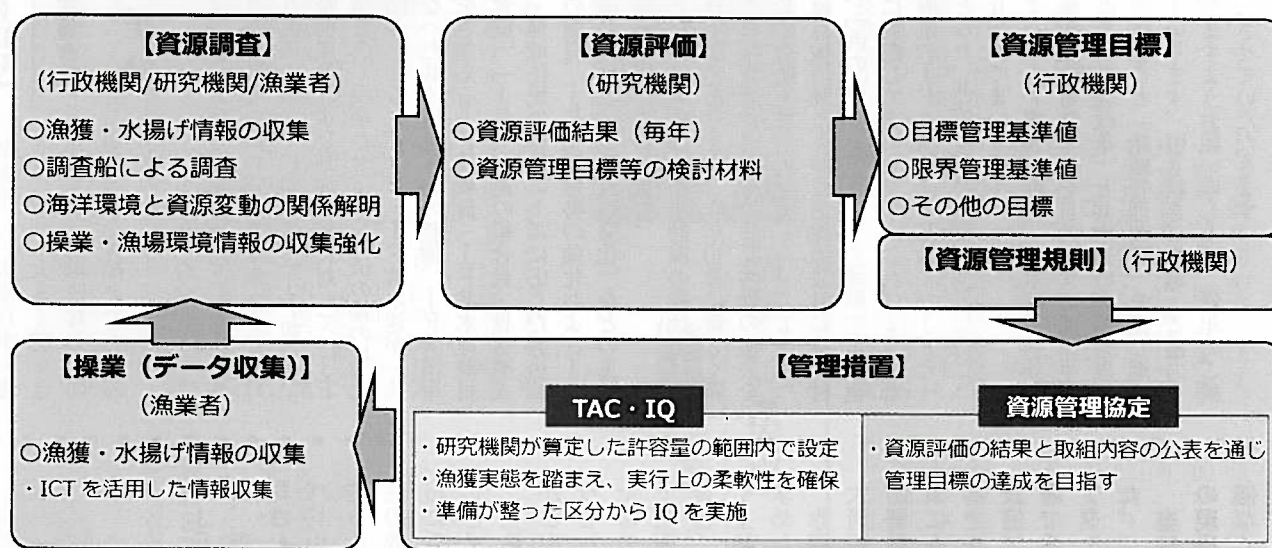
昨年 12 月の兵庫県水産振興議員連盟と JF 組合長懇談会では、話題提供された「新漁業法に基づく新たな資源管理」について活発に意見交換が行われました。今月は浜の関心の高いこの「新たな資源管理」について特集します。

## 新たな資源管理の流れ

漁業法の改正により資源管理の手法が見直され、これまでの漁船隻数制限などの入口規制を主体とする資源管理から、漁獲可能量という出口規制を基本とする資源管理に移行することになりました。

新たな資源管理では資源量の的確な推定が不可欠であり、【資源調査】【資源評価】【資源管理目標の設定】【管理措置】【操業（データ収集）】のサイクルを繰り返しながら資源を管理します。

### 資源管理の流れ（TAC 魚種の場合）



## TAC 管理の推進

### TAC(漁獲可能量)管理とは

魚種ごとに資源の動向をベースとして「漁期年ごとの漁獲可能量」を決定し、これを漁業種類ごと又は都道府県ごとに数量配分して漁獲の管理を行う資源管理手法です。

これまで、ズワイガニなど 8 魚種、漁獲量ベースで約 6 割が TAC 管理の対象となっていました。

国は漁業者の理解と協力を得たうえで、漁業種類別・海区別に準備が整ったものから TAC 魚種を順次拡大し、令和 5 年度中を目途に漁獲量ベースで 8 割まで対象に取り込むことを目指しています。

新たな TAC 魚種は①漁獲量が多い魚種、②MSY<sup>\*1</sup> ベースの資源評価に近い将来実施される見込みの魚種に合致するものから順次検討が開始されます。検討が予定されている 21 魚種のうち兵庫県に関係するのはマダイ、ソウハチなど 12 魚種です。

### TAC 魚種拡大に向けた検討スケジュール（兵庫県関係）

検討開始予定年度	海 域	魚 種
令和 3 年度～	瀬戸内海	ヒラメ
	日本海	ソウハチ、ムシガレイ、ニギス、マダイ
令和 4 年度～	瀬戸内海	ブリ、トラフグ、マダイ、サワラ、イカナゴ、カタクチイワシ
	日本海	ブリ、トラフグ、アカガレイ、ベニズワイガニ、ヒラメ



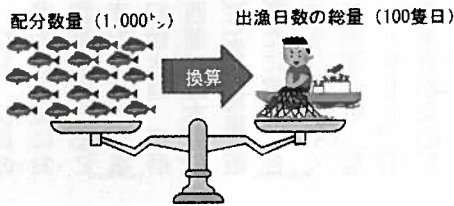
# 新たな資源管理システムにおける管理手法(県管理漁業)

TAC 管理ではまず魚種を指定し、魚種ごとに研究機関が算定した生物学的許容漁獲量の範囲内で TAC (漁獲可能量) を設定します。設定された TAC は大臣管理区分枠を除き都道府県に配分されます。配分は漁獲量の多い県には数量を明示し、少ない県には数量を明示せず、「現行水準」として配分されます。配分された漁獲量は、都道府県資源管理方針で定める手法で管理されます。

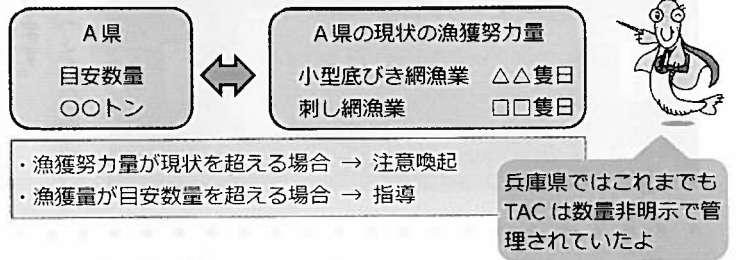
## 管理手法一覧

配分の内容	管理手法
数量明示	①IQ (漁獲割当) 管理 漁獲可能量を漁業者や漁船ごとに割り当て、割当量を超える漁獲を禁止
	②漁獲量の総量管理 漁獲量の合計が上限に達した時点で操業を停止 ①の管理を行う準備が整っていない場合に実施
	③漁獲努力量管理 出漁日数などの漁獲努力量へ換算、その総量を管理 ※2 資源の特性及び採捕の実態を勘案し、②の管理が適当でない場合に実施
数量非明示 「現行水準」	③漁獲努力量管理 目安として示された数量を、出漁日数などの漁獲努力量で管理 ※3

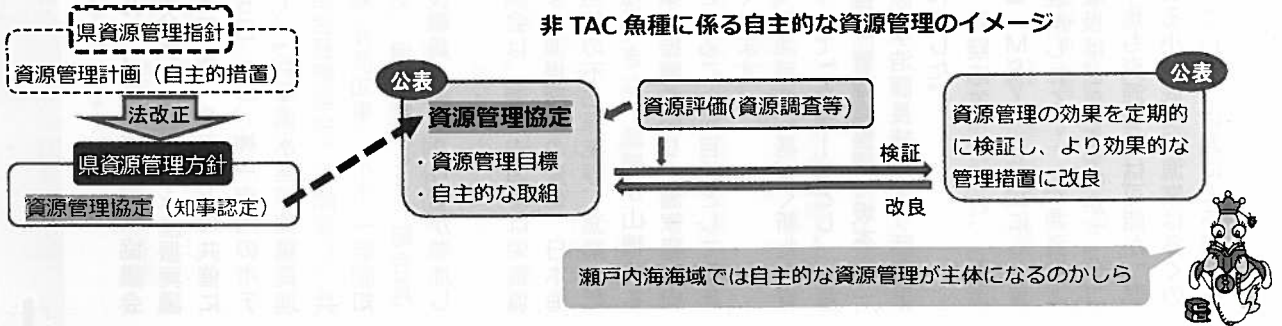
### 漁獲努力量算定のイメージ ※2



### 「現行水準」管理のイメージ ※3



非 TAC 魚種については、漁業者による自主的な資源管理措置を定める「資源管理協定」の活用を図るとされ、特に様々な自主管理が行われてきた沿岸漁業では、引き続き重要な役割を担うと考えられています。



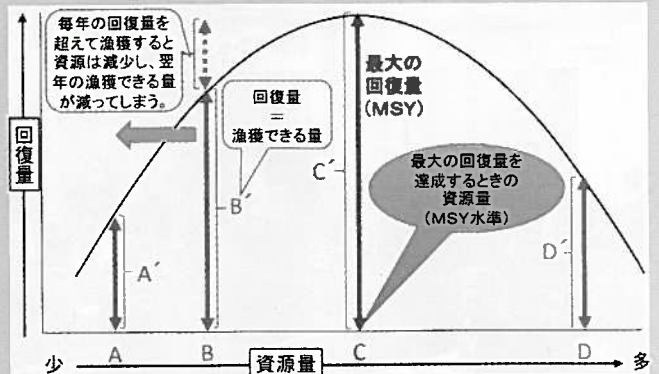
### MSY (最大持続生産量) について ※1

水産資源は、漁獲により資源が減少すると自然の回復力が働いて増加する。

回復量と同じだけ漁獲すれば、資源の量は維持される一方、それ以上に漁獲すれば資源量は減少する。

回復量が最大になる資源量で、増加した分を漁獲すれば最大の漁獲が維持できるというのが古典的 MSY 理論。

現在は海洋環境の変化による仔稚魚の生残率や成長などの要因も考慮し、計算している。



出典：水産庁 HP

## JF兵庫漁連 第46回通常総会 開催

JF兵庫漁連は12月8日(水)、神戸市内のホテルにおいて、第46回通常総会を開催しました。

開会にあたり、田沼会長より「兵庫県による豊かな海への再生の取り組みや全漁連の中央でのご尽力により、6月に瀬戸法の一部改正がなされ、私達が求めていた真の豊かな海への実現に大きく歩み始めました。第46期の本会事業については、のり共販事業が例年より早い時期に色落ちしたこと、数量・金額ともに大きく減少しましたが、流通加工事業において、コロナによる巣ごもり需要や新魚種の取り扱いを始めたことで、売り上げ拡大に繋げることができ、黒字決算ができました。これもひとえに、会員の皆様方のご協力・ご支援のおかげと厚く感謝申し上げます。」と挨拶しました。続いて来賓代表として、県農政環境部農林水産局 萬谷信弘局長と全国漁業協同組合連合会 大森 敏弘代表理事専務から祝辞を賜りました。

第46期の事業実績は、事業総取扱高204億9千9百万円、経常利益1億7百万円(計画対比8千1百万円増)となり、46期事業報



告、47期事業計画、役員を選任等、上程した7議案は全て可決承認されました。なお、役員の変更が行われ、県内各海域における水産物の販路拡大を図ることを目的に、販売担当員内理事5名(大阪湾、紀伊水道、播磨灘東部、播磨灘西部、日本海の各海域より選出)と常務理事(販売担当)1名を新たに置き、各浜の販売事業に力を注いでいくために役員定数を理事16名、監事4名の新体制としました。47期においても、漁業者が安心して沖に行けるよう、役職員一同今後引き続き、漁業の発展に取り組んで参ります。

(JF兵庫漁連)

## 兵庫県水産振興議員連盟と JF組合長懇談会

JFグループ兵庫水産政策協議会(田沼 政男会長)は兵庫県水産振興議員連盟(永田 秀一会長)との共催により12月8日(水)、神戸市内のホテルにおいて、『兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会』を開催し、兵庫県・齋藤 元彦知事、荒木 一聡副知事をはじめ、県会議員とJF組合長系統団体役職員の約120名が参加しました。

この懇談会は、瀬戸内海では栄養塩不足等による漁場環境の変化、日本海では外国漁船の不法操業等、漁業者だけでは解決できない課題が山積する中、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とすることを目的として毎年開催されています。

今年『新漁業法に基づく新たな資源管理について』をテーマとし、水産庁資源管理部管理調整課・坂本清一課長、藤原 孝浩課長補佐より話題提供が行われました。

その後、質疑応答が行われ、「最大持続生産量(MSY)を前提にした資源評価が理解しにくい」「遊漁者による採捕の取扱はどうするのか」「タコなどの1年魚も資源管理は可能か」「混獲漁業である小型底曳網漁業は多くの魚種を取っている。休漁による廃業を



懸念している」など資源評価の方法や漁業への影響に対する不安の声が多く上がりました。水産庁による懇切丁寧な説明により新たな資源管理について知識を深めることが出来ましたが、限られた時間であったため、漁業者の不安や疑問の全ては解消には至りませんでした。新たな資源管理の実践に向け、更なる指導をお願いし、会議は盛会裡のうちに閉会となりました。

(JF兵庫漁連)

## 品質向上のための 栽培試験に取り組む

JAあわじ島では、冬場も日照時間が長く、温暖な気候と多くの有機物を含み排水性の良い砂壤土をいかしたレタス栽培が盛んです。

南あわじ市の櫻木千也さんは10年前、親から圃場を受け継ぎ、現在、レタス150aをはじめ、たまねぎ100a、水稲70aを栽培しています。最も力を入れているレタス栽培では、ディアマンテやオーウェン等6品種を栽培しており、レタスとたまねぎの栽培面積は、この4年間で60~70a拡大しました。その背景で、JAあわじ島志知支所で営農主任の田村太一さんが良き相談役となっています。

田村さんはレタス、水稲、たまねぎを中心に栽培管理、相談、提案を行い、苗の定植から収穫まで、様々な支援を行います。櫻木さんは「連絡するとすぐに来てくれ、気兼ねなく相談することができる。的確なアドバイスをしてくれるおかげで、安心して野菜栽培ができ感謝している」と話します。

また、JAでは、櫻木さんを含むレタス農家と連携し、南あわじ市の環境に適したより高品質なレタスの生産に向けて、毎年数多くの栽培試験を実施しています。令和3年度は116の圃場で試験を実施し、過去3年で79品種を試験しました。さらに、GAP認証に向けた支援やスマートフォンでレタスを撮影すると生育状況を分析し、定植日と今後の予想気温をもとにレタス収穫時期を予測するアプリの実用化に向けて取り組んでいます。

JAでは、生産者との信頼関係を基本に、今後も栽培試験等による農作物の品質向上によって農業所得向上と生産拡大を目指します。



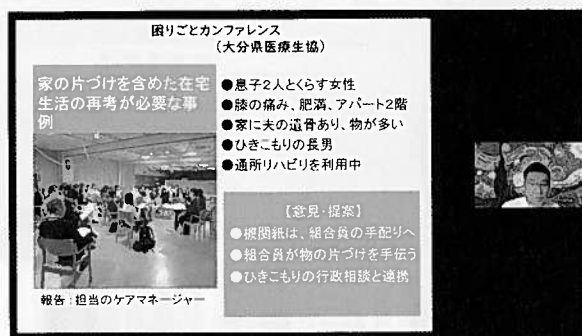
収穫を迎えたレタスの出来栄について話す櫻木さん(左)と田村さん

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## 「保健・医療・ 福祉研究会(拡大版)」 講演・学習会を開催

「保健・医療・福祉研究会」は、長寿社会が進むなか、医療・福祉のあり方や生協が果たすべき役割について考えていこうと1991年に設置、医療生協や購買生協の担当者で構成された研究会です。生協間の情報共有や研究テーマを決めて活動しています。今年度は、昨年に引き続き「地域包括ケアシステム」をテーマとし、12月8日に日本医療福祉生活協同組合連合会 江本淳氏から「消費生活協同組合と地域包括ケア～事業と活動の持続可能性～」と題して、オンラインでご講演いただきました。

講演後は、生協の弱みへの対応や医療・介護の政策について今後の方向性など様々な質問があり、次回の研究会で気づきや疑問を共有し、自生協の事業と活動に活かせるよう取り組みを進めます。



全国の事例を挙げてお話いただきました



ハイブリッド形式で開催しました

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



# 旬に想う

写真と文  
遊方子



## 千駄木町の漱石

◆英国の留学を終えた夏目金之助は明治36年1月に帰国、細君／鏡子の実家の中根家の離れに落ち着く。そして同年の3月文京区千駄木町へ引っ越す。当時の千駄木はまだ駒込村の風情を残した郊外で、樹木の多い草深い所だった。漱石はここから第一高等学校へ通って英語教師として勤務した。また帝国大学の講師としても教鞭をとったが、自分の進む道としては不満の日々だった。イライラから癩癧を起し妻や子に辛くあたった。妊娠中の細君は長女と次女を連れて逃げ出し実家へ避難したが、当時三歳の次女が怖い父親だったと後年に述懐している。この時期、神経を病む漱石は相当辛くて酷い状況だったようだ。

◆千駄木町に三年余りを過ごし、此処で『吾輩ハ猫デアル』が記述された。図々しく入り込んだ野良猫を主人公に、猫の目に映った人間社会を愉快に描写した。それが雑誌『ホトトギス』に掲載され人気を呼び「夏目漱石」の名を多くの人知った。絶賛のため延々と継続され三巻のベストセラーになった。通常『吾輩ハ猫デアル』は娯楽的小説として読まれるが、明治の社会批判の書としても痛快な面白さだ。40年3月、帝大教授になれと薦められ、また朝日新聞社の社員として小説を書かぬかとも誘われる。熟慮の末に朝日へ入社、国民的な作家が誕生する。『猫』に続いて『坊っちゃん・草枕・二百十日』が執筆される。

◆千駄木での生活の様子は、晩年の自伝的小説『道草』で詳細に述べられている。しかし自らの深刻な神経衰弱だった事実は隠されている。寧ろ細君のヒステリーを取り上げ、男女の微妙な在り方として描き、三女の出産に重点を置いているが、実際は四女の誕生のことである。明治38年に千駄木の住まいに泥棒が入って着物などを持ち去る。泥棒は直ぐに捕まり盗品は戻すが、この事件顛末は面白く脚色されて『吾輩ハ猫デアル』の愉快な挿話の一つになっている。

◆千駄木町の住居は犬山市の明治村へ移築され、書斎は文化財として展示されている。建物は当初中島医院の診療所となる予定だった。借家として森鷗外も一時期居住し、何人かの後に漱石が住んだ。漱石は最晩年まで家を持たず、借家を転々とし「人間ハ食ッテ居レバソレデヨロシイノサ」といった。漱石の人生哲学である。書斎にしていた部屋がそのまま残されている。建物の運命は判らないものだ。明治39年暮れ近く、家主が転任となり東京へ戻って来るため、ヤム無く明け渡す事となって、本郷西片町へと転居し、約九ヶ月のち再び早稲田南町へと居を移す。そこが漱石の終の住処となる。千円札の肖像になった写真は、明治天皇崩御・大葬を記念に撮ったらしい。千円札は20年間使われた。

### 県農林水産業の功労者表彰 “令和3年度 兵庫県水産賞” 受賞者決定



受賞者の皆様（前列 左から森様、大下様、亀井様）

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が、令和3年12月21日（火）県公館（神戸市中央区）で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF坊勢 森政道さん、JF南あわじ 亀井一明さん、JF但馬 大下一康さんの3名の方が受賞されました。表彰式では齋藤元彦知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。

氏名	所属	功績内容
もり 森 政道	JF坊勢	坊勢地区の漁業振興と漁協経営の安定に貢献
かめい 亀井 一明	JF南あわじ	ワカメ養殖業の振興と漁協経営の安定に貢献
おおした 大下 一康	JF但馬	沖合底びき網漁業の振興と漁協経営の安定に貢献

（敬称略）